

Title	戦略的設備投資計画と感度分析
Sub Title	
Author	野々村智範(Nonomura, Tomonori) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第867号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0867

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	野々村 智範 (住友セメント株式会社)	主査 伏見多美雄 副査 柴田 典男 柳原 一夫
所属	伏見多美雄 研究室	

戦略的設備投資計画と感度分析

設備投資計画の分析・評価においては、十分な感度分析が必要なことは言うまでもないが、その手法についてはいまだ実践的とは言えない部分がある。とくにいわゆる戦略的な設備投資計画においては一層フレキシブルな感度分析が重要であるにもかかわらず、毎期のキャッシュフローが均等でなくなるため、現状では十分に有効な感度分析ができにくい状況である。

本論文は、このように毎期のキャッシュフローが不均等な投資計画に対して有効な感度分析グラフを提供することを目的としている。

本論文は3部構成になっている。まず第1部では感度分析に望まれる要件を確認する。現在、感度分析という用語は曖昧に使用されているが、それを定義し分類しなおすことで、設備投資計画でとくに有効な感度分析は各代替案の有利な範囲をグラフで表すことであることを述べる。そして、戦略的な設備投資の場合は、そのような感度分析グラフを描きにくいことを説明する。

第2部では販売量の年価という変数を新たに設定し、その変数で感度分析グラフができる可能性について考察する。その手順として、まず外部環境についての予測変数から販売量の年価を推定し、次に販売量の年価と各代替案の正味年価との関係が基本的に線型であることを述べる。さらにより一般的な状況を考えた場合に成り立つ条件についても言及する。

最後の第3部では、第2部での考察をふまえてあるモデルケースを設定し、実際に戦略的設備投資についての感度分析グラフを作成する。そして現状の感度分析手法と比べ、どの程度有用性が高まるかを確認する。